

# 研究グループ形成への支援

## － 新潟大学の例 －

文部科学省研究開発評価シンポジウム

平成23年2月23日 ベルサール九段・イベントホール

仙石正和(新潟大学)

## 組織としての評価ポイント

- (1) 認証評価: 教育評価に重点
- (2) 大学評価: 教育・研究・社会貢献の計画に対する達成度評価
  - この中で、研究業績水準が評価される
  - (分野別: 科研費分科を基本、分野の特徴を考慮)
- (3) 大学ランキング: 論文引用数に重点
- (4) 外部資金、産学共同研究、特許
- (5) その他

大学: これらに注意しながら、研究の活性化へ向かいたい。

## 新潟大学の概要

### (1) 大学の組織

- 9学部(人文, 教育, 法, 経済, 理, 医, 歯, 工, 農)
- 5大学院研究科(教育学, 現代社会文化, 自然科学, 保健学, 医歯学総合)
- 2専門職大学院(技術経営、実務法学)
- 脳研究所、超域研究機構、医歯学総合病院

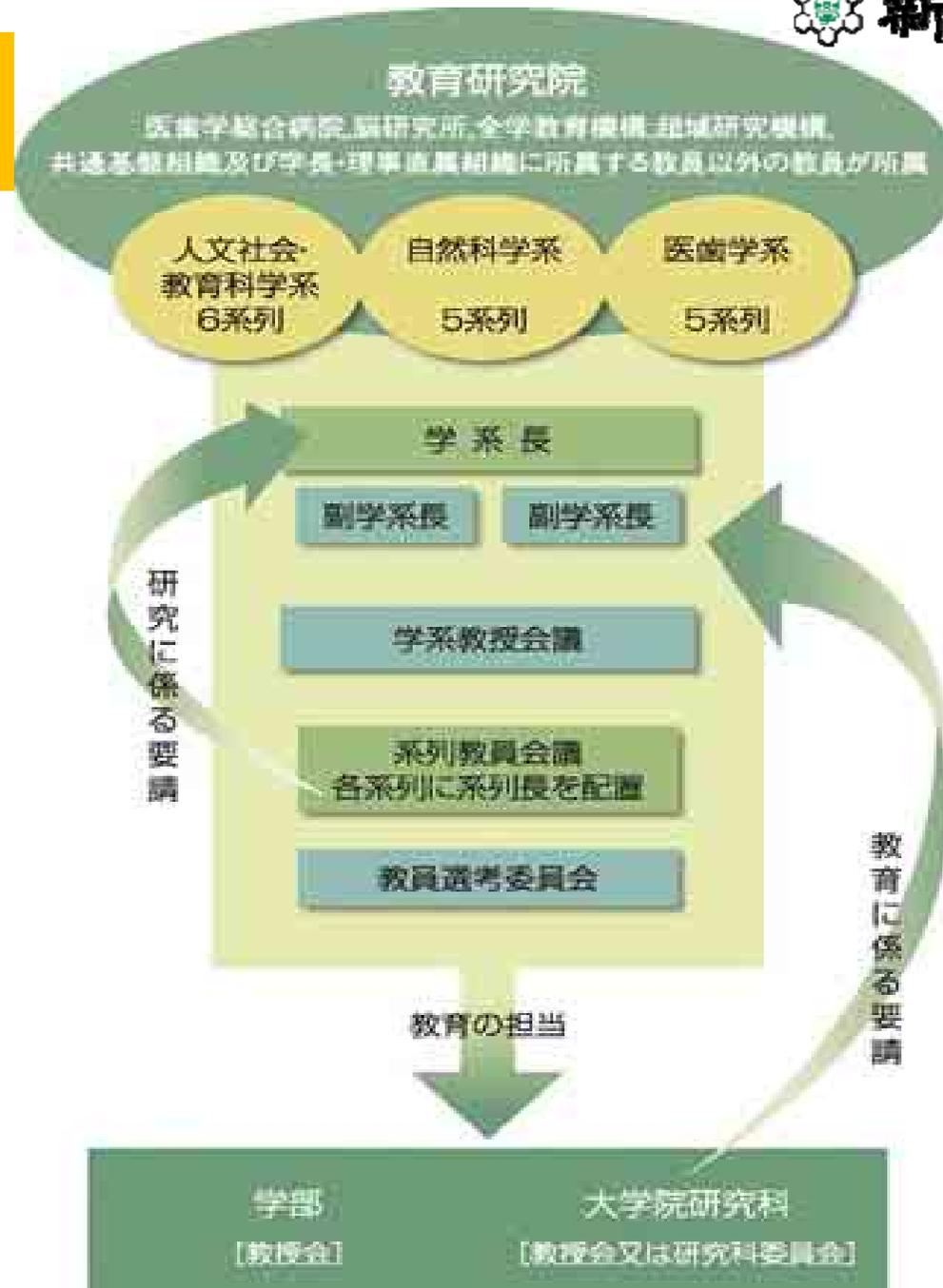
### (2) 大学の規模

- 学生数 約 13,000名、教職員数 約2,300名

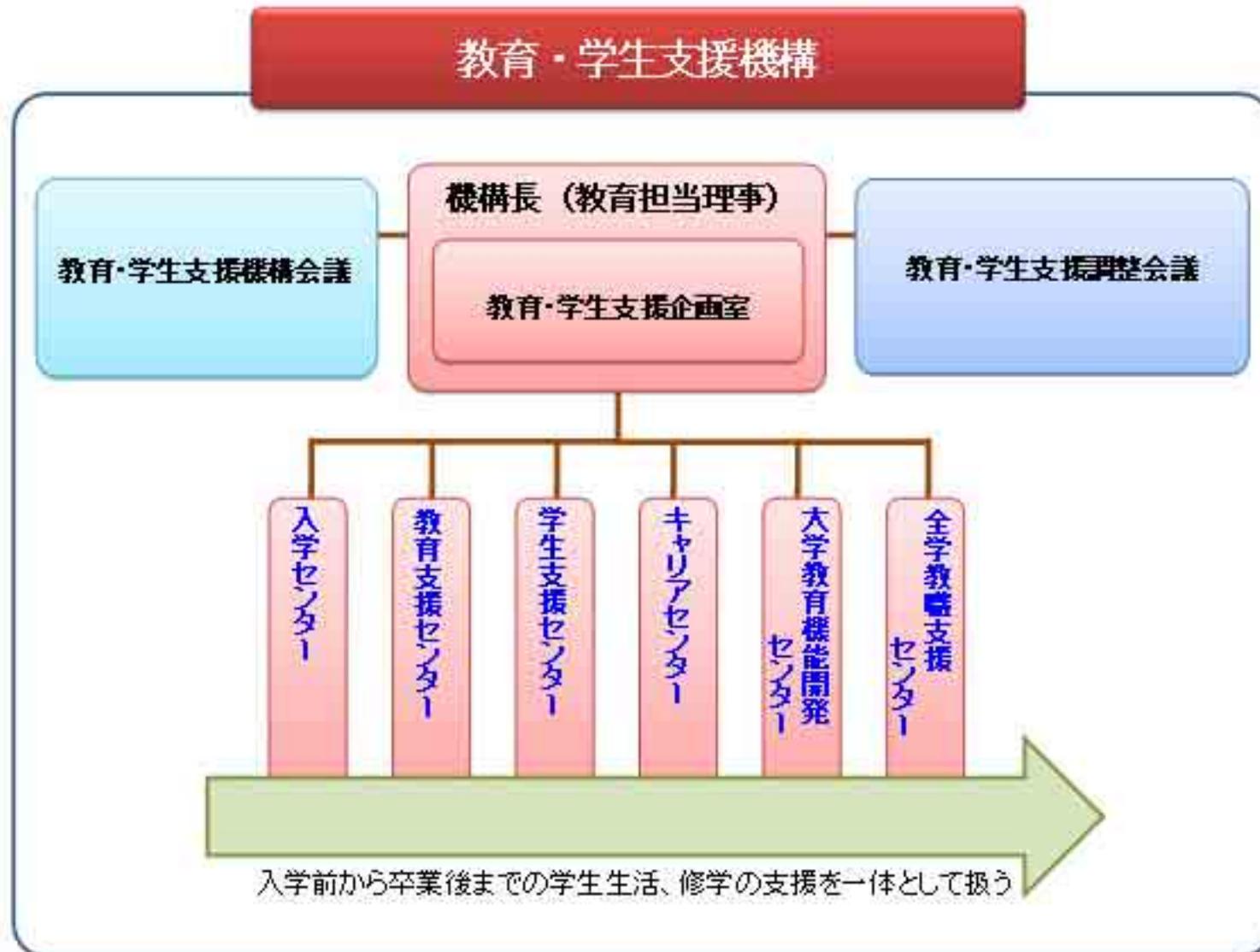
### (3) 教員組織

- 教育研究院

# 教育研究院



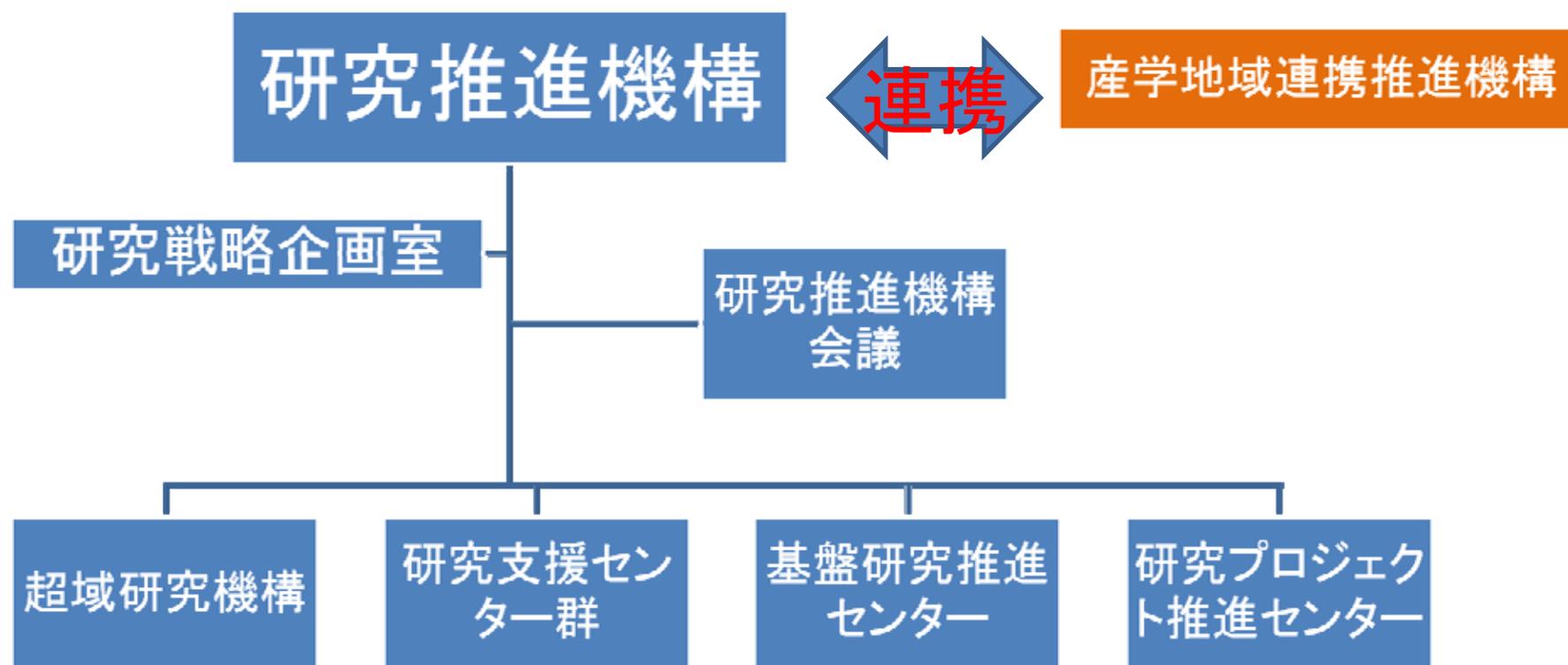
# 教育の全学体制



## 教育システムの特徴

- (1) 従来型の教養科目と専門科目を新たに有機的に連携させた全学科目体制の整備・充実
- (2) 授業科目の体系化(分野・水準表示法の導入)
- (3) 学士課程教育全般にわたる教育プログラム(主専攻課程)の編成
- (4) 学生の多様な関心と資質に即した複線型履修方式(副専攻制度の導入)
- (5) 教員組織である**教育研究院**と教育組織である**学部**の連携
- (6) e-learningによる学習機会の補完・保障

## 研究推進・支援組織(平成23年度改編)



## 研究戦略企画室設置の理由とその役割

### (1)理由

研究費の減少

ヒト,モノ,カネの資源の有効利用の必要性

競争的研究費の増加

### (2)役割

情報収集・分析

研究戦略の策定

評価指標・評価基準の策定

研究基盤整備計画(中長期計画)

## 研究推進の基本的な考え方

### (1) 自由な研究を基本

多様な基礎的研究を土台として、分野横断的・創造的な特徴ある先端的研究を推進する

### (2) 研究活性化には意欲、能力、環境が必要

教員の研究に対する**意欲**が最重要

研究設備、ポストク、大学院生数などの**研究環境**が重要

### (3) グループ研究を推奨

単独研究より一人当たりの生産性が高い

経験(文献)から、**グループ研究**を推奨

## 方策

(1) プロジェクト推進経費(学長裁量経費から)

- ・研究推進支援経費、A, B (外部評価)
- ・若手研究者支援経費(学内評価)
- ・研究発芽支援経費(学内評価)

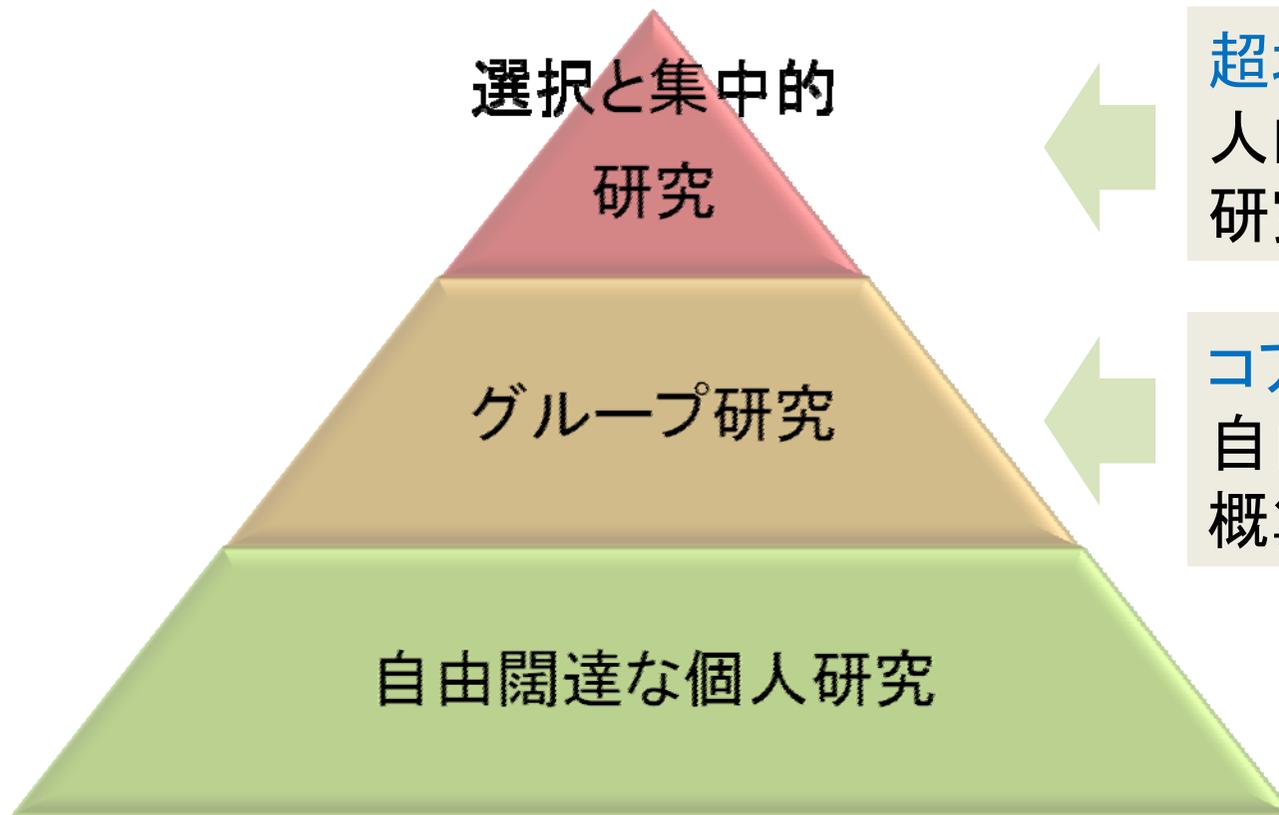
(2) コアステーション制度(自由なグループ研究)

- ・概算要求権利ある。

(3) 超域研究機構制度(選択と集中)

- ・教員ポスト(任期付)が得られる。(外部評価)

# 新潟大学の研究システム 個人研究からグループ研究へ



超域研究機構制度  
人的配置  
研究費支援

コアステーション制度  
自由な研究グループ  
概算要求権

## 研究グループの構成のポイント

- (1) 広い領域・背景の優れた研究者を集める。
- (2) 自由な発想を重視する。
- (3) 明確なビジョンを持つ。
- (4) 相互に刺激・協力しあう環境を維持する。

## コアステーション制度

### (1) 目的

グループで自由に行う教育・研究活動を支援する

### (2) 事業体の構成員

教員，非常勤，大学院生，研究生及び学外の研究者

### (3) 認定

代表者が学長に申請し認定

### (4) 期間

認定を受けた日から3年を限度

### (5) 協力体制

活動のため，関係する学内組織が協力  
外部資金等の申請のための情報等を提供

## 認定コアステーション(24グループ)

### (1) 人文社会・教育科学系 (4グループ)

環東アジア研究センター

Institute for the Study of the 19th Century Scholarship

### (2) 医歯学系 (5グループ)

国際感染症研究センター

こころの発達医学センター

### (3) 自然科学系 (15グループ)

物質量子科学研究センター

地域連携フードサイエンス・センター

国際情報通信研究センター

## 超域研究機構

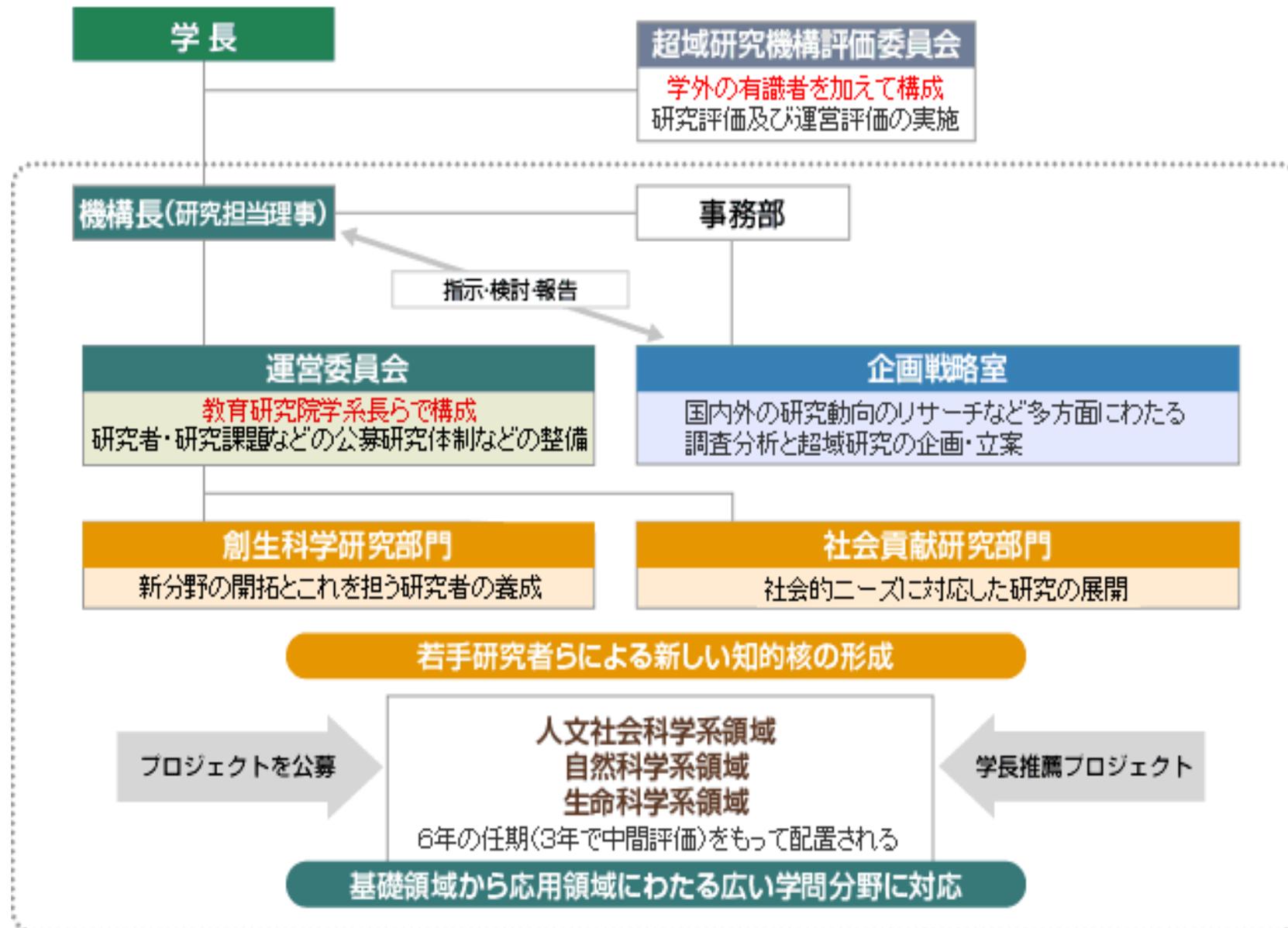
### 目的

新潟大学の先端的研究の拠点として位置づけ、大型研究プロジェクトの立ち上げや外部資金の獲得をめざし、新潟大学全体の研究の活性化と教育への展開につなげる。

- 1) 新たな分野や分野横断的な領域での、先端的で国際的な水準を持つ研究の発芽・発展を醸成する特徴ある研究グループの集合を形成する
- 2) 大学の代表的な研究プロジェクトとして、大型の競争的資金や科学研究費(S),(A)の獲得を目指す

現在:24プロジェクト

## 超域研究機構の構成



# 調査・発掘，チンギス・カンの実像に迫る

(白石典之教授・超域研究機構)



# 脳血管障害のメカニズムの一端を解明

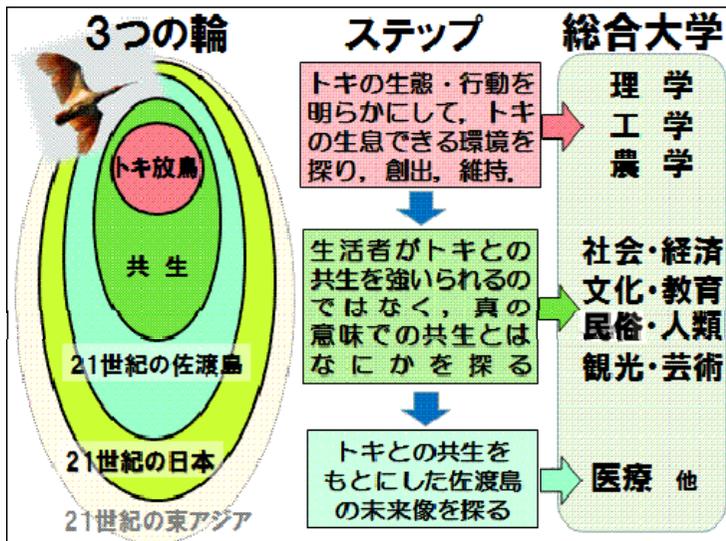
(小野寺理准教授・脳研究所,超域研究機構)



# 超域研究機構附属朱鷺・自然再生学研究センター (佐渡島)



とき(朱鷺)



2010年4月16日

## 超域研究機構の外部資金獲得率

### (1) 文部科学省科学研究費(超域／全学)

特別推進研究・・・100%

基盤研究S・・・100%

基盤研究A・・・ 90%

基盤研究B・・・ 39%

### (2) その他の大型競争的資金(超域／全学)

振興調整費・・・ 60%、農林水産省・・・ 100%

厚生労働省・・・ 50%、経済産業省・・・ 100%

環境省・・・ 100%、総務省・・・ 100%

国土交通省・・・ 100%

## 研究評価

### (1) 学内プロジェクト推進費

大型は外部評価、若手、萌芽は学内評価  
評価指標は科研費方式

### (2) 概算の申請順位(自然系)

学系長、部局長、研究推進委員、将来計画委員(約20名)によるヒヤリングで評価  
最終判断は学長

### (3) 外部評価

事前評価: 超域研究機構のプロジェクトの採否  
中間評価  
事後評価: 最終評価はすべて外部評価

## 研究グループの評価項目

### (1) 評価項目

研究の質：論文のインパクトファクター

研究の生産性：論文数、特許

研究の社会への影響：企業との共同研究

研究の活力：研究チームを率いるリーダーの能力

### (2) 実際の評価は、科研費の審査項目を活用

研究活性化＝意欲、能力、環境がキーワード

特に、意欲は最重要。

## 研究グループ形成支援 まとめと課題(1)

- (1) 研究グループの形成は研究者の自発的なものと大学の意図的なもの  
自発的なものを重視
- (2) 評価は、主に科研費方式を基本
- (3) 研究評価を量から質に変える
- (4) 研究の過度の選択と集中は、大学の共同体(同僚制)文化に亀裂
- (5) 研究グループが固定化しやすい  
新しい研究の芽を見逃さない対策

## 研究グループ形成支援 まとめと課題(2)

- (6) 研究グループの中での大学院教育の実質化  
どのような制度化が可能か？
- (7) 最重要課題は、最近の様々な大学環境の中で、研究  
意欲(野心)をどのように高めるか？  
研究FDの課題
- (8) 研究活性化は、研究評価と同時に人事制度とも関係  
が深い  
テニキュア制の導入の検討